

設営方法

実際の山行の前に、組み立ての練習とパーツの確認を行う必要があります。

⚠️ 注意点

- 1 強風時はテントや外張が吹き飛ばされることがあります。できる限り2人1組で設営することを心掛けて下さい。
- 2 冬のテント設営は低温化で行われます。必ず、手袋を着用して設営をして下さい。ポール等を低温化で素手で触ると、凍傷になる場合があります。
- 3 手袋をしても無理なく設営ができるように事前に練習してから山行を行って下さい。

手順① インナーテントの組み立て

用意するもの：インナーテント・ポールセット

テント本体に付属の取扱説明書に従い、インナーテントを組み立てます。

手順② 冬用外張の取り付け

用意するもの：冬用外張

組み立てたインナーテントの上に冬用外張を被せます。インナーテントの出入口と冬用外張の吹き流しの位置を一致させます。冬用外張の4隅の裾裏側に取り付けられているバックルテープは、吹き流し面のみ赤色です。これを目印にすることで、方向性の間違えを防ぐことができます。

手順③ 冬用外張の固定 1

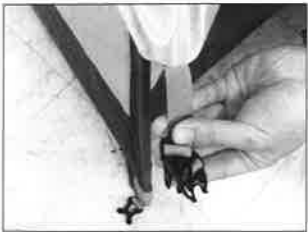


冬用外張の裏側のポールにあたる部分(表側に張網ループがある場所の裏側)に、ポールに巻き付けるベルクロテープが付いていますので、これをポールに巻き付け固定します。

全4箇所
(丸印部分)



手順④ 冬用外張の固定 2



インナーテントの♀バックルと対応する部分に♂バックルが取り付けられています。このバックルを固定します。

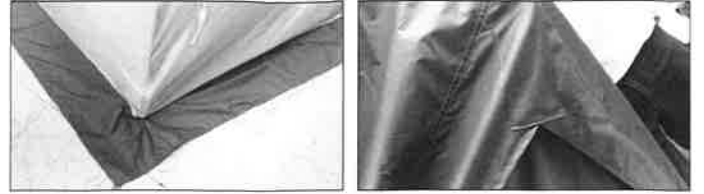
全4箇所
(丸印部分)



⚠️ 注意

冬用外張には2つの♂バックルが取り付けられています。これは、ご使用モデルによってバックルが異なるからです。(VL45S、VS50S、VL26TSはバックルは1つしか付いていません。)ご使用のインナーテントの♀バックルに合う♂バックルを使用して下さい。合わない方の♂バックルは不要ですので、破棄していただいて結構です。バックルに雪が詰まるとバックルが固定できなくなりますので、できる限りバックル(特に♀バックル)は雪に付けないように気を付けてください。

手順⑤ 冬用外張の固定 3



冬用外張の裾裏側はスカートになっています。このスカートの中にインナーテントの4隅を取めます。

全4箇所
(丸印部分)



手順⑥ 張網の固定

用意するもの：張網6本・スノーアンカー6機

※本製品には付属されていないので、フライシートに付属されている4本をご使用下さい。天井部に使用する2本分は、ロープなど代用するか、別に用意して下さい。

ポールに沿った張網ループ(4箇所)に張網を接続し、雪面のスノーアンカーで張網を固定します。天頂部からの張網固定は、マイルドな条件の時は不要ですが、強風時は天頂部にある張網取出口から、ポールの交差部に直接2本の張網を巻き込むように固定します。片方の張網は吹き流しの面に、もう片方はベンチレーター面に配ります。特に風の強い時は図の用に天頂部張網を上から見て十文字になるように取り付けることで、テントの浮き上がりを押さえることができます。



全5箇所
(丸印部分)

手順⑦ 裾の固定

用意するもの：スノーアンカー8機

スノーアンカーを利用して、冬用外張の裾に取り付けてあるペグループを雪面に固定します。最後にスカートの上に雪を盛り付けて完成です。

⚠️ 注意

スノーアンカーとは、十字ペグや竹ペグなどが一般的で、それらを雪に埋めて使用しますが、現場にある木の枝などで代用することも可能です。

VL・VSシリーズテント共通冬用外張取扱説明書



このたびはお買い上げいただきまして誠に有り難うございます。お買い上げいただきました冬用外張の性能を十分に引き出すために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。また、この取扱説明書をお読みいただく上で、テント本体に付属しておりました取扱説明書も必要となります。もし、お手元に無いようでしたら、ご購入のお店にてお取り寄せ下さい。なおご使用中はいつでも取り出して確認ができるよう、分かりやすい場所に保管くださいますよう、お願いいたします。

① 冬用外張との取り付けが可能なテント

外張の品番	取り付け可能なテント
VL15S	VL13・VL14・VL15・VL16・VS10
VL25S	VL23・VL24・VL25・VL26・VS20
VL26TS	VL26T
VL35S	VL33・VL34・VL35・VL36・VS30
VL45S	VL43・VL44・VS40
VS50S	VS50

② 冬用外張とは？

雨が降る可能性がほとんどなく、降雪の可能性が高い状況で、フライシートの代わりにテント本体の上から被せて使用します。冬用外張は、フライシートと違って防水性はありませんが、撥水性と通気性のある素材を使用しています。そのことで、フライシートと比べ、雪に降り込められても窒息の可能性を軽減できます。また、テント全体を包み込むように冬用外張で覆うことにより、テント内の保温性を高めることができます。さらに、通気性のある素材ゆえに、中と外の温度差の激しい雪山での使用では、フライシートと比べ、結露が少なく、快適なテント生活を送ることができます。ただし、降雨が予想される場合は防水性がないため、冬季でもフライシートの使用をお奨めします。冬山登山は非常に厳しい自然の中での行動になります。降雨、降雪両方の可能性がある場合は、冬用外張とフライシートの両方を持参することをお奨めします。

連絡先／株式会社 HCS (エイチシーエス)

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-3-19 (八木下ビル4F)

TEL.03-5200-0770

③ 安全情報

②で冬用外張は通気性のある素材を使用していることを記載しましたが、それでも限界を超えると換気不足に陥ることがあります。そのあたりの判断は山行をされる方にゆだねられる部分があります。そういう意味では冬用外張は冬期山行の知識と経験を充分にお持ちの方を対象とした製品です。そのことをご理解いただいた上で、以下の点には特にご注意下さい。

Ⓐ 雪面に穴を掘ってテントを設営する場合

雪面に穴を掘って(雪洞を含む)、中にテントを設営することは、強風下の稜線などでも静かに快適に過ごせ、冬期山行ではよく使われる技術ですが、悪条件が重なると換気不足に陥り、大変危険な状況になるということをご理解ください。場合によっては死亡事故に至る場合があります。

Ⓑ 降雪が続いている場合

降雪が激しく続き、外張全体が雪で覆われるようになると、素材の通気性能が失われることがあります。そのような場合は、まめに外に出て除雪をしないと窒息状況に陥ることになります。夜の大量の降雪には特に注意をして下さい。そのような状況になった場合、道具の性能よりも、はるかに厳しい条件になっていることを認識して下さい。そして、ご自分で考え、行動することで、初めて道具の性能が活かされる、ということを理解下さい。

⚠注意 テント内で起こる死亡事故のほとんどは換気不足が原因です。

換気には充分ご注意下さい。